

# Sex Differences in Short-Term Outcomes After Acute Ischemic Stroke : The Fukuoka Stroke Registry

入江, 芙美

<https://hdl.handle.net/2324/1500601>

---

出版情報 : 九州大学, 2014, 博士 (医学), 課程博士  
バージョン :  
権利関係 : やむを得ない事由により本文ファイル非公開 (2)



氏 名：入江 芙美

論 文 名：Sex Differences in Short-Term Outcomes After Acute Ischemic Stroke

The Fukuoka Stroke Registry

(急性期脳梗塞後の短期予後における性差 The Fukuoka Stroke Registry)

区 分：甲

## 論 文 内 容 の 要 旨

これまでの欧米での研究により、女性は男性と比較して脳卒中発症後の機能予後が不良であることが知られている。しかしながら、我が国を含めたアジア諸国からの報告は少なく、さらに、性と機能予後の関連が、性に伴う脳卒中の危険因子や治療内容の差によるものか、生物学的性そのものが問題であるのかを検討した詳細な報告はない。そこで、生物学的性が脳梗塞後の機能予後に関する独立した危険因子であるか否かを明らかにすることを本研究の目的とした。

脳卒中コホート研究である Fukuoka Stroke Registry に 1999 年から 2013 年の間に登録された急性期脳卒中患者 15,252 例の中で、発症前は機能的に自立していた発症後 24 時間以内の初発脳梗塞 6,236 例を対象として研究を行った。臨床予後は、神経学的改善、神経学的増悪、機能予後不良（退院時の modified Rankin Scale スコアが 3-6）により評価し、性別と臨床予後との関連を、ロジスティック回帰分析を用いて解析した。

その結果、女性という性は退院時機能予後不良と有意に関連し、この関係は交絡因子を調整しても有意であることから、生物学的性が重要であることが明らかになった。また、女性という性が機能予後に与える好ましくない影響は、高齢者においてより顕著であることも明らかになった。女性の脳卒中生存患者については機能予後が不良であり、その社会的影響が大きいことに鑑みれば、特に高齢者において、性に応じた脳卒中予防戦略を立てることが非常に重要であると考えられた。